赤澤大臣ぶら下がり会見記録（要旨）
《令和 7 年 4 月 16 日(水)19:55～20:12(現地時刻)　於：在米国日本国大使館旧公邸》

〇冒頭発言
【赤澤大臣】
本 16 日、16 時半から約 50 分間、ホワイトハウス、オーバルオフィスにて、トランプ大統領を表敬し、17 時 30 分から約 75 分間、同じくホワイトハウス内で、ベッセント財務長官、ラトニック商務長官及びグリア通商代表との間で米国の関税措置に関する日米協議を実施をいたしました。トランプ大統領への表敬の場には、ベッセント財務長官、ラトニック商務長官、そしてグリア通商代表といった米国の関係閣僚も参加しました。私からは、総理のメッセージとして、日米双方の経済が強くなるような包括的な合意を可能な限り早期に実現したいとの考えを伝えました。トランプ大統領からは、国際経済において米国が現在置かれている状況について率直な認識が示されました。また、米国の関税措置についても、率直に述べられつつ、日本との協議が最優先であるというご発言がありました。その上で、両政府間で協議を続けていくことを確認したところです。その後の日米協議では、私から、米国の関税措置は極めて遺憾であるいうことを申し上げ、我が国の産業や日米両国における投資、雇用の拡大に与える影響などについて我が国の考えを説明した上で、米国による一連の関税措置の見直しを強く申し入れたところです。今般の協議の結果、日米間で以下の点について一致いたしました。双方が率直にかつ建設的な姿勢で協議に臨み、可能な限り早期に合意し、首脳間で発表できるよう目指すということが 1 つ。2 番目は、次回の協議を今月中に実施するべく日程調整をすること。そして 3 番目が、閣僚レベルに加え、事務レベルでの協議も継続すること。今回の協議も踏まえつつ、引き続き政府一丸となって最優先かつ全力で取り組んでまいりたいと思います。私からは以上です。

〇質疑応答
（記者）
今日、アメリカのトランプ大統領と面会されたとのことですけれども、今回、急遽大統領と面会することになりましたが、まず、大統領と面会したことの受け止めと、アメリカ側の狙いをどう考えるか。また、トランプ大統領からの、具体的に農産品や自動車等の具体的な内容について何かご提案等があったかお願いします。それに加えて、この面会の手応えもお願いします。
【赤澤大臣】
まず、トランプ大統領が今日会ってくださったことは、これはもう大変ありがたいと思います。端的に、明らかにもう格下も、格下です。出てきて直接話をしてくださったことは本当に感謝しております。それがまず 1 点目です。それで、2 番目、大統領が体現されているメッセージは、先ほど申し上げたお言葉の中にもありましたが、日本との協議が最優先である。

それはもう 70 か国、100 カ国が列をなしているとおっしゃっている時に、全部に大統領が出られるわけではありませんので、日本との協議は最優先であるというのをまさに体現をされたっていうことが 1 つだと思います。そういう意味で、私自身はやっぱりこれは、そうはおっしゃっていませんが、急げという思いもきっと込められておられるのだなということも思いましたし、併せて、やはり私すごく感銘を受けたのは、大事だと思う仕事はリーダーシップを発揮する、もう自分が直接上に手を置くと、こういう感じです。やっぱりそういうことだと私は受け止めました。

（記者）
トランプ大統領から何か非関税障壁や農産品について何か具体的に要望があったかと、面会の手応えをお願いします。
【赤澤大臣】
そこは、本当に米側が何を考えておられるのかが如実にわかってしまう話なので、差し控えさせていただきたいと思います。

（記者）
今回の協議で、為替、安全保障に関する話も出たのでしょうか、米側から。出たとすれば、今後どのような枠組みで議論を進めていこうと考えておられるのでしょうか。
【赤澤大臣】
この言い方をするとちょっとわかっちゃうことがある。為替については出ませんでした。以上です。

（記者）
安全保障に関しては。
【赤澤大臣】
為替については出ませんでした。

（記者）
まず最初に確認させていただきたいのですけども、今月中に次回の協議を行うと仰っていましたが、トランプ大統領ということなのか、どのレベルなのか。
【赤澤大臣】
これはもう私と閣僚。大統領ではないと私は理解をしています。

（記者）
わかりました。その上で、その協議とおっしゃっていたのは、アメリカ側からすると、相互関税と自動車関税を撤回しますという前提の協議という理解でよろしかったでしょうか。

あと、もう 1 点。今回の会議の目的として、土俵を決めることを目的とされていたと、これまでお話されていたと思うのですけれども、先ほどご自身でも格下とおっしゃっておられたと思うのですが、アンバランスな関係性の中で、その土俵をトランプ大統領に決められたというようなことはなかったでしょうか。
【赤澤大臣】
先ほど申し上げた通りで、私自身が、自動車、それから鉄鋼アルミ、10 パーセントの相互関税、全て含めて遺憾である、その見直しを求めるということを向こうに強く申し入れています。とりあえず、今日の時点で申し上げられるのは、そこだと思います。それから、土俵を決めることについては、具体的に何が話題になるのか、テーブルに乗るのかという話は我々も差し控えます。大統領は、そういう意味では本当に温かい配慮の方で、格下だっていうことを本当に感じさせない。本当に懐の大きさというか温かさというか、配慮は非常に強く感じたということは申し上げておきたいと思います。加えて、何かしら大統領も、これをやるのだというようなことを、強くおっしゃったようなことでは今日は全くないという風に理解をしております。自分のお考えをしっかり述べられて、端的に言えば、日本が協議最優先だということをいい、そしてまたコミットメント、この協議にはもう自分が本当に間違いなくリーダーシップは示されていますし、その上でしっかり閣僚同士で詰めろというお考えということだと思います。

（記者）
関税については明確な向こうからの回答はなかったということで良かったでしょうか。
【赤澤大臣】
回答というか話は続けましょうということです。そういうことだと理解をしています。

（記者）
先ほどの質問とも重なるのですけれども、安全保障について、今日、トランプ大統領は SNS で、その軍事支援の費用についても話し合うことも SNS でよく示されていましたが、安全保障についての議論はされなかったということでいいのかということと、もし先方の発言を紹介するのに支障があるということであれば、日本側からどういう考え方を伝えたかとか、日本側の発言などを差し障りのない範囲で教えてください。
【赤澤大臣】
交渉の具体的な内容についてはコメントを差し控えたいと思います。

（記者）
関税政策の見直しを求め、また日本側からの投資などの説明をされたと思うのですが、納得して頂けているのか。ラトニック長官も入れて 4 閣僚でこれを続けていくっていう理解でよろしいでしょうか。

【赤澤大臣】
まず、最初の点については、交渉事って全部がまとまって初めてパッケージとして確立をするものですので、今日の時点においてここが納得していたとか、そういうことを申し上げても、あんまり最終的な結論というか、全体としてどこまでちょっと意味があるのかなと思うので、その点についてもちょっとコメントは差し控えたいと思います。あと、私の理解が正しければ、ラトニック長官とグリア代表は、この日米の交渉については本当にほぼ一体として動いておられるように私には見受けられました。ということなので、完全に一体として動いているということで、その時々でどちらかが出られるということもあるかもしれませんし、両方を揃って出られる今日みたいなこともあるかもしれませんが、いずれにしても、そのお 2 人が完全に意思疎通をした、ほぼ一体に動いておられるように私には見受けられました。

（記者）
今日、トランプ大統領とお会いして、彼自身は、日本の米の関税が 700 パーセントだとか、関税が全般的に高いということを言及していますが、それについて事実誤認だということを伝えて彼に理解させられたのかどうかということ、あと、投資を日本はたくさんしてるわけですけど、そういうことをちゃんと伝えられたのかどうか、理解を得られたのかも教えてください。
【赤澤大臣】
具体的な中身や発言については、申し上げるのは差し控えますが、少なくとも、石破総理が大統領に対して何を申し上げているかといえば、関税を課されることで我が国の自動車メーカーとかが米国にこれからも新たな投資をしていこうという余力がそがれるというか、そういうことがあって極めて残念だということも伝えていますので、そういう中身については、日米で、少なくとも我々が言っていることについて先方は理解はしていると私は思っています。

（記者）
今日の場でそれを伝えることはできましたか。
【赤澤大臣】
具体的な今日のやり取りの中身についてはちょっと差し控えさせていただきたい。

（記者）
早期合意を目指されるということでしたが、例えばなんですけれども、今、相互関税 24 パーセント部分、90 日間停止されていますが、この期間内に終わりたいとか、そういう何らかのスケジュール感ございますでしょうか。
【赤澤大臣】

これは、だから、米国はこの 90 日間でディールを成り立たせようというお考えを持っているのだろうと理解をいたします。その上で、我々からすれば、それはやはり交渉事なので、相手があることなので、できる限り早くやりたいという思いは持っていますが、ただ、交渉の今後の進展っていうのはまだ全くわかりませんので、何か今のご質問について申し上げられることが現時点であるとは思いません。

（記者）
石破総理から、指示であるとかメッセージを受けてトランプ大統領と会われたというようにお話をされていましたが、どのようなメッセージをお伝えになって、トランプ大統領からどのような反応があったのか、お伺いします。
【赤澤大臣】
はい。まず、総理のメッセージとして、日米双方の経済が強くなるように、ウィンウインで包括的な合意を可能な限り早期に実現したいという総理のお考えをお伝えしたところであります。それに対して、トランプ大統領からは、国際経済において米国が現在置かれている状況について率直な認識を示されたということがあります。米国の関税措置について率直に色々ご説明をいただき、その上で、日本との協議は最優先だとのご発言があったわけです。その上で、その場で、関係閣僚とよく話してくださいということで、両政府間で協議を続けていくということが確認された次第です。

（記者）
為替の話、ちょっと出なかったとお伺いしたのですが、トランプ政権内から、ドル高を是正したいという話、度々出されています。日本側も、今の円安を、どのように見ておられて、日本側の円安を是正したいという思いがあるのかというのが 1 つ。それから、ベッセント財務長官は、同盟国に対して 3 つ求める、それは、共通の経済、共通の防衛、共通の通貨目標だということをおっしゃっておられます。今回のディールの中に、日米の、かつてのプラザ合意のような包括的なマクロ経済政策を包含したような通貨協定を結ぶような考え、パッケージがあるか、お伺いさせてください。
【赤澤大臣】
まず、為替について言うと、ファンダメンタルズを反映して決まってくるもので、私自身が何かこう不測の影響を市場に与えようとは思いませんので、特にコメントすることはまずありません。そういった前提の上で、ただ 1 つ今日話題出なかったのは、もうご案内と思いますけど、先の 2 月 7 日だったか、日米首脳会談で、為替についてはベッセント財務長官と加藤財務大臣の間で議論する、そういうものであるということが記者会見の場で明らかにされ、その後、ベッセント長官が石破総理を表敬された時にもその話をしているので、先方はよく理解しているということなのではないかと思います。だから、全体として何か言いたい時は、交渉全体を担当しているのは私ですので、私に今後何かおっしゃることは絶対な

いかどうかちょっとわかりませんけど、そこはそういう仕切りがもうできているということはあるのだろうと思います。それから、最後の話は、まず少なくとも為替について何か我々が特定の、なんというか、投機的な動きとかがあれば、それは日本政府としての判断で何か行動すること、あるいはもう過去にご案内のとおりあったわけですけど、そういうものを離れて何かするということがあるわけではありませんし、もちろん我々円安誘導とかそんなことやった覚えもないので、そういう今確立されてる枠組みの中で今後ものは進む話であって、あと具体的なことさっきおっしゃってたようですけど、そういうようなことについて、全くというか、考えているものではありませんので、そこはご理解いただきたいという風に思います。

（記者）
今回、トランプ大統領とも急遽会われて、さらに一致点も 3 点ほどと多かったと思いますが、ご自身としては、今回 1 回目の交渉として何点ぐらいか、自己評価お願いします。
【赤澤大臣】
これはもう結論において、我が国の国益、それから米国の国益を満たすウィンウィンのものが出来上がらないと結論において意味がありませんので、本日、何かこう、自分が取り組んだことについて点数とか言われても、あまり意味があるようにはちょっと残念ながら思えないです。こういうお答えで申し訳ないです。

以上